


博导眼光 教授品位

宋希仁 著

日本采风

接触日本——细嚼日本文化

中国民族摄影艺术出版社



日本采风

宋希仁 著

中国民族摄影艺术出版社

责任编辑 马郁翠
特邀编审 张业清
装帧设计 赵 潜

日本采风

宋希仁 著

中国民族摄影艺术出版社出版发行
(北京市东城区和平里北街14号 邮编 100013)
北京通州区京华印刷厂印刷
各地新华书店经销

*

开本:850×1168毫米 1/32 图片:83幅 印张 10.75 字数:16万字

2002年4月第1版 2002年4月北京第一次印刷

印数:0001-10000册 定价:19.80元

ISBN 7-80069-364-3

该书如有印装质量问题,请与本社发行部联系退换
(编辑部电话:64211752 发行部电话:64211754)

出版说明

摆在读者面前的这本书,是中国伦理学和道德建设研究中心研究员、中国人民大学哲学系教授、博士生导师宋希仁先生,于1998年夏,应日本社团(法人)伦理研究所邀请在该所客座研究期间所记的日记。

这部日记以朴实、生动的文字和自拍、自选的照片,记下了围绕伦理道德主题的所见、所闻和理论研究成果。日记的前半部分主要是走访的所见、所闻、所想,兼及议论一些理论问题;后半部分主要是研究现代日本伦理学家丸山敏雄伦理思想的心得,间或记景叙事、抒情言志。这部日记既是细致、生动的采风问俗散记,又是严谨、思辨的伦理研究随笔,且有作者的诗词书法点缀其中。可以说,它提供了作为学者在短期内进行观察研究的自由、灵活、独特的著作形式。

这部日记涉及到日本社会生活的广泛领域;记述了作者所到之地的湖光山色、世风民情、蝉语哲理和发人深省的问题;勾画了社团(法人)伦理研究所的组织机构、活动方式、敬业精神、人物风貌;阐发了丸山敏雄先生的功业、人格和伦理思想的方方面面。它的出版不仅可为伦理学的研究和道德建设提供有益的思想启示,而且也将为中日友好和文化交流发挥积极作用。

出版するにあたっての説明

読者に呈するのは、中国国家倫理学と道德建設する研究センターの研究员、中国人民大学哲学系教授である宋希仁先生が書かれた著作である。彼は1998年の夏、倫理研究所(社団法人)の招待を頂き、2ヶ月ほど日本の各地で研究、見学したことがある。その際、体験した出来事を詳しく記しておいた日記はきちんと編集されて、今の本になっていた。

その日記には生き生きとした文字で書かれたばかりではなく、作者の撮ったと選擇した寫真の面白さも楽しめる。内容は倫理や道德という主題に關するいろいろな見聞、感想や研究の考え方などである。前半は主に見學するとき見た、聞いた、思いついたもの及びそうした理論問題に對する發想で、後半は倫理研究所創始者丸山敏雄先生の倫理思想についての思考である。または、日本の名所の美しさ、出会った友人のこと、そのときの心の安らぎ、人生への情熱に關する随筆はこの本に点在している。その日記には日本人の風俗がよく表され、倫理学理論を深く掘り下げてきた分析も揭示され、その上に作者の書いた詩や詞、書道作品も多く鑑賞できる。この本は學者として一人の中国人、海外に短期間滞在するうちに觀察、研究のすばらしい手本になれるといってもよい。

この日記は日本社会における生活など幅廣い分野を論述し、また、足を運んできたところの景色、風俗、人生の洞察、心の響きも書き、しかも倫理研究所の組織構成、活動方法、关系者の仕事振りも描写し、特に、丸山敏雄先生の伟业、人格及び思想も深く考察していた。その日記を出版するのは、わが国の倫理学の研究と実践のために、よい見本を提供し、さらに中日友好と文化交流に積極的な役に立つであらう。



作者简介

宋希仁，男，1936年7月生于吉林省临江县，1960年毕业于中国人民大学哲学系，现任中国人民大学哲学系教授，博士生导师。1991年被评为全国优秀教师。主要著作有：《西方伦理思想史》（上下）、《不朽的寿律——人生的真善美》、《伦理与人生》；主编《道德观通论》、《当代外国伦理思想》、《伦理学大词典》、《古今中外治家名言点评》（四卷）、《中国伦理学百科全书 东方卷》、《中国伦理学百科全书 西方卷》等；撰写论文百余篇。已完成国家重点项目《社会伦理学研究》，现正主持国家伦理学和道德建设基地重大项目《现代化进程中的伦理秩序》。



博导宋希仁教授客座日本，若有所思，子夜才气，行云流水，名曰“日本采风”，实为借景抒怀；心静，文静，心畅，文畅。作者为师一生，人正、净、静，得贤弟子博士几十；对本书凡有品位者，开卷有益。

——南海尊博士

目 录

- 缘起(1)
- 餐馆议采风(3)
- 办公室和宾馆(6)
- 感受交通秩序(7)
- 秋叶源电器商店(11)
- 在加藤家做客(12)
- 马路所见(14)
- 便当的艺术(17)
- 接见的规矩(19)
- 三部伦理学的书(20)
- 东京印象(22)
- 会见理事长(24)
- 街头即景(27)
- 初谈敏雄思想(29)
- 打长途的尴尬(30)
- 看电影(31)
- 经济伦理纲目(32)
- 长寿秘诀(33)

全员大会(36)
和式料理(37)
情系大阪(39)
筑波会友(40)
早朝讲用会(43)
广神教授谈文化(45)
银座说“另类”(47)
去国立图书馆(50)
青少年育成运动(51)
皇宫大墙外(54)
石碑和墓地(58)
和屋生活方式(60)
洗澡的程式(63)
感情的冲突(65)
大家过生日(66)
席间谈道术(69)
朝礼与卫生(72)
信仰的忠诚(73)
神社的祈愿牌(75)
甚兵卫茶屋(78)
天上山谈护林(81)
寻求原道德(82)
房顶的环保(84)
四字观感(85)

丸山敏雄先生(87)
“三镜”加一镜(89)
月下散步所见(92)
研修班的文明(97)
人性的显露(98)
夫妇道和《忠经》(102)
至诚的哲理(103)
福井谈德福关系(106)
论和与爱(110)
直行与即行(114)
万叶园忆诗(116)
茶屋画廊(117)
万叶园花木(119)
生态“三祈”(121)
文房四宝(123)
书苑题字(125)
登富士山(129)
填“行香子”词(132)
再提生态伦常(134)
书道六法(138)
论余暇的书(141)
“世俗化”辨(142)
宴席论酒(146)
家训经典(148)

美在和谐(149)
素直纯情(154)
工作即喜悦(157)
礼和礼仪(158)
东京打油诗(163)
《渔父辞》点评(165)
秋雨秋意(168)
茨城中日友协(168)
关屋得宝(171)
法人伦理研究所(173)
浅草悟禅(176)
飘香的中华街(177)
横滨“海之日”(180)
说“服务贵敬”(185)
扇子与匕首(190)
天王寺的乞丐(192)
京都游禅寺(195)
饭店题字(198)
价值观的源头(201)
传统和服作坊(203)
近藤家说世情(206)
看相扑所思(210)
性的问题(211)
伦理指导会(216)

今井感悟人生(216)
金钱和道德(219)
红屋理念(221)
朝礼的功效(223)
读史悟“树人”(225)
社会伦理两书(230)
说“信以成事”(236)
无墙亦安(240)
企业经营之道(243)
温泉圣地(245)
景美在于爱护(250)
东壑山诗意(251)
再住静岗(253)
雨中读《誓言》(256)
偶像崇拜异说(257)
宠物与“亚伦理”(259)
新世伦理(264)
说“和合在心”(269)
续“和合在心”(272)
道简易行(275)
贵在善始善终(280)
职业道德的思考(283)
古野教子(288)
《易经》的影响(293)

续论职业道德(299)
从神谈到哲学(306)
实验伦理的启示(310)
看望中国学生(323)
逛跳蚤市场(326)
认同“竞争”(328)
道别之情(330)
后记(333)

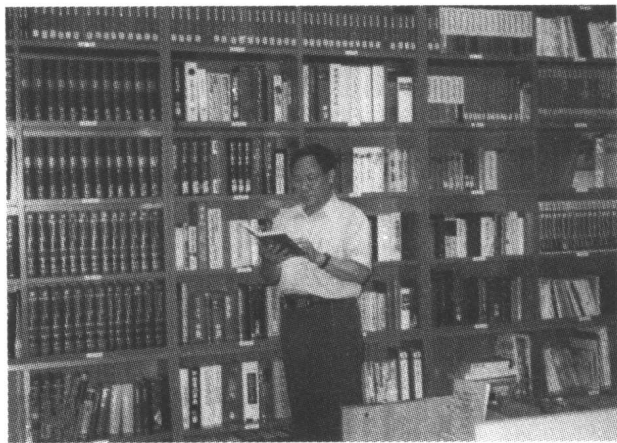
缘 起

1998年6月19日至8月20日,我和李茂森博士,应日本社团法人伦理研究所的邀请,在该所进行为期两个月的客座研究。主要是研究该所创始人丸山敏雄的伦理思想,同时在研究之余,到一些地方走走看看,采风问俗,了解一些社区文明建设经验。这里记下的是两个月所见、所闻、所想的一些片断,或者说只是一些碎片。尽管有茂森君的流利的翻译,但我仍感所见、所闻、所记的太少,留下诸多遗憾。因为是走马观花,所以看花多,挑刺儿少;表层的多,深层的少。不过,瓦罐有道,细心的人总可以从中得到点什么。如果有人对出国一两次就写什么观感、游记,报之以轻蔑,那我要告诉阁下:我所要学习的日本现代思想家丸山敏雄先生年轻时第一次到中国来观光一个半月,走了7个城市,写下的游记比我记的要多一倍呢!

依我看,初次出去,看什么都新鲜,那就把新鲜感记下来。出去多了,呆的时间长了,认识深了,那就把深刻的认识写下来,如此而已。我暗自庆幸,记下了这点东西,深也好,浅也好,总算没有白走一趟。



日
本
采
风



作者宋希仁教授在日本。

6月19日

餐馆议采风

早8时半从北京上飞机,经过3个多小时的飞行,中午到达日本东京成田机场。半日驾艇云外游,醒来两脚踏瀛州,现代化的工具使地球变小了。下了飞机,有种说不清的轻松和兴奋心情。走出机场,乘电车约1个小时到达东京都的千代田区三崎町社团法人伦理研究所总部。稍事休息后,由三浦贵史和镰田美子介绍最近的安排。饭后,暂住研究所宿舍休息。

下午5时许,到一家叫做兰屋的餐馆吃晚饭。第一次自由地在日本小餐馆吃饭,很新鲜。四年前那次来日本是开会,几天的时间安排得紧紧的,集体行动,没有个人活动时间。这次只有我和李茂森,可以自由活动了。李君曾在筑波大学读博士两年,对日本比较熟悉,有他陪同,语言沟通和环境适应都不成问题,就更自由了。

这个餐馆不大,但是很讲究,屋里的陈设和卫生都很好。服务态度也很好,到屋即有面带笑容的服务员迎上问候,然后引导就坐。就座后,马上送上精制、干净的菜谱单,一边给顾客介绍、说明、解答问题,一边问记顾客点要的料理品名。之

后迅速起立,快步进工作间报告。接着就送上冰水、茶,接着又送上筷子和餐巾。筷子是一次性的,密封包装,简素美观。餐巾是从蒸锅里拿出来的,温热适度,卫生绝对保证。服务员上菜时总是找不易碰到顾客的外侧把菜放到桌上,绝没有从顾客背后,或肩上伸胳膊递菜的。而且递上一菜就说一声“道造”(请)。如果顾客有什么要求或问题,随时呼唤服务员,随叫随到,而且认真服务,不会怠慢。吃饭过程中,如有腾出的餐具,随时就会撤走,收拾干净,不会影响整洁、美观和顾客的情绪。这样的服务做到了热情、周到、高效率。



作者和李茂森博士(左)在东京饭田桥上。

在吃饭的时候,我们谈到社区文明建设,议论中日的区别。李君说,日本有种说法,认为中国是由政府下达要求,由